

会 議 録

会議の名称	ざま未来プラン懇話会		
開催日時	令和5年7月3日（月）15時00分から17時30分まで		
開催場所	座間市役所5階 5-4、5-5会議室		
出席者	麻生委員、大下委員、太田委員、沖本委員、片岡委員、小林委員、内藤委員、中尾委員、村岡委員、室橋委員、湯浅委員、米山委員、津軽石アドバイザー		
事務局	総合政策部長、総合政策課長、企画調整係長、主事2人		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	傍聴人数	0人
非公開・一部公開とした理由			
議 題	1 ズマ未来プランの進捗状況の検証、評価等について 2 まち・ひと・しごと創生総合戦略について		
資料の名称	資料1 市民アンケート調査 集計結果 資料2 まちづくり指標（速報値） 資料3 まち・ひと・しごと創生総合戦略		
会議の結果			
各委員の意見を今後のざま未来プラン推進に係る取組に活かすものとする。			
議事の詳細			
事務局	議題1 ズマ未来プランの進捗状況の検証、評価等について （議題1について、ざま未来プラン策定から今に至るまでの市の取組等を説明。また、資料1及び資料2の補足に加え、懇話会の進行方法を説明。） 委員の皆様から、ざま未来プランを推進、また、まちづくり指標の目標を達成していくためにどのような考え方や取組が必要か御意見を頂戴したい。		
委員	まず、政策1共に学び、健やかに育つまちづくりの施策1について話したい。この「妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援やサービスを提供します。」という目標がとても良いと思った。妊娠出産した時に、今の子育て世帯というのは、楽しく子育てしたいとか、女性が自己実現するために保育園に預けたいというプラスというよりは、「明日子どもと私は生き		

ていけるのかな。」というくらい切羽詰まった思いで子育てしている人が多い。私自身もそうだったし、周りの人を見ていてもやはりそういう人が多くいる。この「切れ目のない」というのが非常に大事で、赤ちゃん訪問の実施もしていただいているが、産後の1、2回で終わってしまい、それだと切れ目のないというには不足しているのではないかと思った。切れ目のないというのは、時期的なこともそうだし、どのような人でも、自分から情報を取りに行ける人ではなくて、学力的な差や今まで過ごしてきた環境や世代がどのような人であっても、絶対取りこぼしのないように切れ目なく行政側からサポートしていく、積極的なサポートが必要だと感じている。そのために必要だと思うことは、まず座間市で産後ケア事業をされているが、産婦人科で週に2回それぞれ5時間しか枠がなく、人数も限られている。電話予約なのでなかなか予約を取れない人が多くいる。さらに、生後4か月までしか申込みができない状態で、夜泣きが始まる時期なので、もっと切羽詰まった人が利用できず、体調を崩してしまう人もいるので、産後ケアの充実が大事だと思う。

加えて、一時保育もぜひ充実していただきたく、座間市は、「保育園の空きがあれば一時保育します。」くらいしかなく、突発的に、「今、今日、無理だ。」という時に預け先がない。そういう時に虐待に手が出てしまったり、無視したりというところまで行ってしまう人がいると話を聞いている。「今、やばい。」という時にぱっと預けられるような一時保育が必要だと思う。厚木市にはそういうところがあるので、ぜひそういう施設を作ってほしいと思う。

また、座間市にネウボラがあるが、ネウボラの取組が非常に素敵だと思う。ネウボラはもともとフィンランドで行っている活動で、ここでは妊娠期から出産、産後までずっと継続的に何度も何度も特定の担当と面談を重ねていく。そうすると保健師との面談を何度も繰り返していくので、心理的な親密度が上がっていき、頼りやすくなるそう。せっかくネウボラが座間市にあるので、そういう保健師との面談を、1、2回だけでなくもっとたくさんして育児の知識不足、技術不足をカバーしていけば良いのではないかと思っている。

最後に、今回色々な分野から委員が参加しているので、室内遊技場が座間市にはないので作っていただきたいと思っている。座間市の公園はたくさんありどこも素敵だが、今、地球温暖化の影響でものすごく公園が暑い。昼間、夏だと9時、10時には大人でも10分でも辛いような気温になっているので、室内の遊び場があると良いと思う。スカイアリーナ座間に幼児体育室があるが、ここはコロナ禍の影響で使えなくなり、その後社

事務局	<p>会福祉協議会の事務所を移転するという話を聞いて、この夏どうやって過ごそうと思ってしまうので、そういう場所があると子どもに十分遊ばせてあげることができるし、親も孤立せずに済むのではないかと思う。</p> <p>委員からは、施策1子育て世代包括支援の部分で、切れ目のない支援や誰一人取り残さないというところに着目していただき、個別の取組でいうと産後ケアの充実、ネウボラごまりんの取組の充実、また、室内遊技場の不足というところも御指摘いただいた。また、施策3保育の部分で、本市の一時保育に柔軟性がもっとあったら良いのではとの御意見をいただいた。これら全て子育て世帯の目線からいただいた意見と捉えている。この意見だけで2時間議論できそうな意見でもあるが、時間も限られている都合上、今、頂戴した意見に関し、気が付いたことやそれぞれの委員の知見からお考えのこと等お話しいただきたい。</p>
委員	<p>今、お話が出た中で、室内の話が出ていた。これは、確認をしていただきたいのだが、自治会によっては、集会所を夏休みに開放していたりする。冷房をきかせた状態で、子どもさんだけでも良いから、来て遊んで行ってくださいということで、こちら側はほとんど見ているだけ、危険なことがないように見ているだけで何もしないが、開放しているところがあるので、これは自治会によるので何とも言えないが、御自身の自治会に確認していただければと思う。</p>
委員	<p>マンションに住んでいて、自治会には加入していない。子育て世帯で一軒家を買いたいけど金銭的、経済的に家を買うことができない人は多い。家の近くでも土地を売っていたが、とてもじゃないけど買えないという方がたくさんいて、そうするとマンションやアパートに住んでいる方が非常に多いのだが、そういう方でも自治会は入れるのか。</p>
委員	<p>マンション1棟ごと自治会を運営されているところもあるし、マンションの住民が地域の自治会に入られているケースもある。</p>
委員	<p>私の父が高齢者介護施設の施設長をしており、そこは高齢者と赤ちゃん、子どもの触れ合いが盛んにされている施設である。それが高齢者にとっても乳幼児にとっても非常に良い雰囲気であり、まさに自治会で見てくださいる大人がいて、そこで自由に遊べる子どもがいる空間は良いと思った。</p>
事務局	<p>他に意見はあるか。</p>
委員	<p>先ほど体育館の幼児体育室の話が出ていたが、社会福祉協議会が9月から2年間入らせていただく。幼児体育室の利用が全くされていない状況だったので、先ほど委員が話されていた子どもを十分遊ばせられるよう</p>

	<p>な施設だとすると、市に要望しないといけない。我々が2年間使わせていただいて出た後、原状に復すが、今のままだとおそらく何の遊具もなく、床が少しクッション状態になっていて、動いたりするのはすごく安全だが、魅力のある施設かという、全然魅力のない施設だったからおそらく稼働率が悪かった。</p> <p>そこは市で、公共施設の再整備ということで、市全体の公共施設をここでスクラップアンドビルドというか見直しをしている中で、その辺も考えていただければと個人的に思っている。</p> <p>私の地元の話になるが、地元の食品スーパーが建物を丸々市に譲渡し、そこが遊び場になっている。そこがすごく良かった。無料で室内の砂場や大型の遊具がたくさんあり、そこはNPOが運営しているが、利用者は無料で使うことができた。民間と行政とNPOが皆で協力すれば、そのような魅力的な遊び場ができるのだと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>他に意見はあるか。また、懇話会の最後に追加意見の時間も少々設けるので、同じテーマや関連する意見はその際にお願したい。委員に御発言いただいてからだいたい10分くらいだが、このような形でだいたい一人当たり時間でいうと5、6分くらいのサイクルで御発言いただいて進めていきたい。それでは、次の委員。</p>
<p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>委員から話があったが、私自身の専門でもあるので、気づいたところ、ただ、いくつかの会議でもう発言していることがほとんどなので、かいつまんでお話ししたい。</p> <p>皆様ご存じのとおり座間市は保育所の待機児童が解消できていない。全国的には待機児童がどんどん減っている中、50人の待機児童を持っている自治体が全部で10あって、そのうちの一つが座間市である。座間市の特徴として私が見たところ、認定こども園がないというところで不思議だと思っている。というのは、今の若い世代も含め、様々な保育に対するニーズを持っている。それと同時にコロナ禍のことも含めて在り方もだいぶ変わってきている中で、それに対応するいわゆる保育の環境、幼稚園も含めてだが、それを考えた時に保育園や今までの従来型の幼稚園という形でいくとなかなか対応が難しい。その両方の良いところを併せ持っている認定こども園、認定こども園もいくつかパターンがあり、幼保連携型、幼稚園型、保育園型、それから地域裁量型だが、その一つも座間市には存在していない。</p> <p>例えば、幼稚園であれば幼稚園の教育方針や文部科学省からのそういった補助金関連のことで、うちはこれで大丈夫だということでそうなのかもしれないが、他の地域では全国的に見ても幼稚園を抜かすのではない</p>

かというくらい認定こども園がどんどん増えてきている状態。

また、待機児童解消については色々な問題をクリアしなければならないが、もちろん建物の問題、定員を増やさなければいけない。国も色々な施策を出しているけれども、実は意外に我々も頭を悩ませていることがある。あまり表に出ていないが、実は保育士不足が起きるだろうと思っている。どんなに建物を作って増やしても、保育士の確保ができないとどうにもならない。なぜそういったことを言っているかということ、私の手元に東京、神奈川近辺の保育士養成校のデータがあるが、あまり表に出せないのだが、軒並み定員割れを起こしており、ひどいところでは半分以下。そうすると閉校も考えられる大学も出てくるだろう。うちは今のところありがたいことに何とか保ってはいるが、それでも少し今の入試関連の動きを見ていると厳しいと思っている。なぜそのようなことが起きているかということ、今までは高校生等でも保育・福祉の分野に進もうという人たちが一定数いたが、激減。保育・福祉を選択する高校生が激減していると。その理由については全く分かっていない。なぜ分からないかということ、高校の先生も頭を悩ませている。なぜこんなことになってしまったのかと色々調べてみると、おそらく色々なネガティブキャンペーンだったり、保護者が保育・福祉に対する良い印象を持っていないということが一つあるのと、不適切保育ということが全国でもどんどん起きてきて、それが表に出てきている中において、我が子をそういった道に進ませるということに二の足を踏むという御家庭が増えて来ていることは確かであろう。

あと一つ、やはり保育士に関して、幼稚園の先生もそうだが、地元就職する傾向がほとんどである。なので、座間市で保育士を確保することを考える時に、座間市から保育士の養成校であったり専門学校でも良いけれども、そういったところに行って免許資格をとって、そして座間市に戻ってくるというのが1番望ましいことだと思っている。そうすると高校では間に合わない。相模原市でもう計画しているけれども、小学校、中学校の段階から保育との関わりを持ってもらった上で、「保育とは」ということをしっかり知ってもらった上で、作っていかないと、高校生になってからそういった動きをしてもまず間に合わない。そうすると、例えば座間市の小学校や中学校と共同してそういった職業体験でも良いけれども、そういった中で子どもたちと関わるということは何なのかということを経験してもらうことによって、座間市から保育士を目指す。「私は、僕は、保育士になりたい。幼稚園の先生になりたい。」では、なるためにどうするのか。そうしたら、例えば相模原市に保育士の大学があるし、または厚木市にもあるし、それはもうその子が選ぶべきことだが、選ぶところまで

	<p>いかない。選択肢としてあがってきていないということがあるので、少し我々も今年の入試を見てみないと分からないが、だいぶ減ると思う。その動きがこのまま加速していく可能性も十分考えられる。そうなったら待機児童云々で建物が足りない、保育士が集まらない、集まらないとなると今度は保育の質の低下が見えてくる。「誰でも良いよ、保育手伝ってほしいよ。」となった時に、今の小中学校でも見られることだが、教育の低下、保育の低下というものがおそらく見られていく。非常に負の連鎖というか、良い方向に進んでいかないと思っているので、座間市に関しては小学校、中学校の先生方、教育委員会も含めて、教育してもらいつつ、市が先導してそういったところをやっていく必要があるだろうと。養成校だけではもう手に負えなくなっている。</p>
事務局	<p>委員から施策3保育について、本市の待機児童の現状から、認定こども園の話や保育士不足の話であったり、座間市全体として小中学校からもっと関わったら良いのではないかと、保育士を育成する仕組み、そういった御意見をいただいた。これに関して、他に意見はあるか。</p>
委員	<p>データだけになるけれども、全国的に保育士の有効求人倍率が、全国だと直近では3.12。神奈川県では、2.6。これはどんどん増えている。下手したら来年は3を超えるかもしれないのではないかとと思っている。</p>
委員	<p>今、委員が仰られたように待機児童の問題というのは近隣の自治体と比較しても色々な施策の段階でもうひと踏ん張りほしいところ。というのは、待機児童を認定こども園とかそういうところでカバーし、待機児童の数字というのは、自治体によって募集期間とか随時募集期間とか色々なタイミングで、様々な表記の仕方をしている。1回目で待機児童が出てしまっても50人なのかどうか。認定こども園だとか、民間の保育園を増やすことは重要だけれども、例えば、我々働く側や事業者の側からすると、3年後、5年後とか事業は簡単に閉じることはできないので、それが非常に皆様の中で難しいことだと思う。そこで働く保育士と事業者というところを考えながら、近隣の自治体ではうまくやっている。待機児童の数も激減している状態になっているので、ぜひとも主婦の方々、関連自治体の皆様と連携を深めて、また、近隣地域の自治体連携も含めて子育てというところをもう少し、待機児童をカバーしていかないと、基準値を低くしないと、取り残されてしまうという状況に見える。その辺がこの指標の数値から言っても非常に気になるところ。</p> <p>また、施策2と3の表記だが、保育の関係の待機児童数と児童ホームという表記について、今、世間一般で問題になっている放課後教育まで足を踏み入れる必要がある。例えば低所得者が多い中、生活するには小学校、</p>

事務局	<p>中学校まで預けたいという希望が非常に高まっている。放課後教育という言葉が出ていない。代表的な言葉なので、用語の使い方、子育てに関する用語の使い方をもう少し見やすくしてもらいたい。</p>
委員	<p>他に意見はあるか。</p> <p>保育士を育てること、保育士の需要が大切なのはそのとおりだと思うけれども、子どもが少なくなっていく中で、もし保育士の需要を満たしたが、子どもが減った時に、その保育士たちの職場が狭まるということ、単純に考えるとそういうこともあると思うのだが、そのあたりはどういう見通しを学会なり研究会の中でお持ちになっているのか。</p>
委員	<p>最近出た情報だと、国としては待機児童が全国的に減ってきているというデータを出しているが、コロナ禍が収束し、これからの働き方改革も含めフルタイムで働く御家庭が増えていく。その中において様々な保育のニーズを持っておられる。例えば、病気がちの子どもであったり、障がいのある子どもたちを何とか受け入れる方向で動いている中において、そうすると待機児童は今後また増えていくだろうという国の予想が出ている。それに対して、対応できない自治体等はたぶん大変なことになっていくと思っている。色々な障がいのある子どもたちも一緒に保育していかなければならないということがこれから望まれていくことになるし、今までは看護師資格がないとできなかった喀痰吸引であったり、そういったことも研修を受けることによって看護師がいる必要があるけれども、保育士もそういったことができるということを相模原市でやっており、そのための研修も今始まっており、我々も力を入れているところでもある。そのようなことも含めて、まだ暫く今後20年、30年先は分からないけれども、これから先多様なニーズが求められる保育になっていくだろうと思っているので、そうすると、より保育士の専門性を高めていかなければいけない。高めていかなければいけないのだけれども、集まって来ないというところで、それでは潜在保育士を掘り起こして、過去保育士経験があったらやってくださいといっても、でもそれだけだとどうなのかなということも出てくる。答えになっていなくて申し訳ないが、難しい問題である。</p>
委員	<p>今の話の関連だが、私が知っている幼稚園は1クラス13人で、担任の先生が1人だが、他の幼稚園だと1クラス30人で見えたりする。それは、先生が2人くらいいるけれども、そうすると見きれなかったりだとか、ルールに則らない子どもは特別に対応する形になってしまっていて、それが適切と言えるのか疑問を持っている。私が知っている幼稚園は先生たちも余裕があり、ずっと笑顔でいられる。保育士が多すぎることは今</p>

<p>事務局 委員</p>	<p>後起きないのではないか。いるに越したことはないのではないかと思う。</p> <p>また、先ほども言ったとおり父が高齢者介護施設の施設長をしており、この施設の職員向けの保育園の園長もしている。そうすると高齢者介護施設と保育園を兼任してやっているので、場所も庭や建物を共用したり、イベントも一緒にして人員不足の解消にも繋がっており、高齢者と乳幼児両方にとって良い環境が作れているので、そういう形でも保育園というのはどんどん作っていけるのではないかと思う。</p> <p>様々な御意見を頂戴したところで、いったん次の委員に進みたい。</p> <p>文化という視点からお話をさせていただきたい。座間市には文化活動は当然あるわけだけれども、過去を見てみると、郷土資料館というものが座間市にあったが、昭和40年代くらいに取り壊すという、どういう判断があったかは分からないけれども、そのようなことがあって、その後資料館といったものが設立されることは無い状態で今に至っている。市内に文化財がないか、そんなことはあるわけではないし、十分な歴史も持っている。そういうものを市民に伝える、あるいは情報として提供できる体制が欠けていると考えている。</p> <p>そういう中で、ざま未来プランを拝見して、施策15生涯学習・文化芸術だが、「文化芸術事業の参加者数」の基準値が令和3年では8,770人で、この数字は一体どこから出したのだと元の資料を読んでいる時に思った。コロナ禍の最中で、このような活動を市民が、日本中がこぞって中止しているところの基準値をなぜ持つてくるのだと思い、他の資料では平成28年を使っているものもあるにもかかわらず、なぜ文化行政のところだけは令和3年なんか入れてくるのだろうと思った。今日いただいた資料の中では令和4年では22,770人になっており、こういうところの基準値の最新値と目標値だったら実現できるような数字に見えてくる。そういうところで数字の捉え方について疑問の心を持っていたが、最新値ということで直していただいたので、それなりに納得している。その中で、「生涯学習事業の参加者数」の指標というのが出ているが、私は生涯学習課と付き合いが多いが、これは何の数字を足してきた数字なのかとなかなか思い当たらず、もう少し明細に分かりやすい項目にして数字を出して、あるいは数字はトータルで良いが、内訳を入れていただきたいと思う。そうすることによって理解が深まり、それに対応する力も出てくるのではないかと思っている。</p> <p>施策の方向性3について、郷土博物館の設置に向けてということで、2年前私も関わらせていただいたが、郷土資料館の設立の提言書というものをもとめて教育長に出し、それが少し上には上がったようだが、そこか</p>
-------------------	---

	<p>らは失速し、その後どうなったか分かっていない状況。そういう中で、まちづくり指標として、「史料の整理点数」ということが出ているが、全くそのとおりで、郷土資料館を作ってほしいといった方も今の史料を保存してある場所も視察しているけれども、まったく史料がリストとして残っていない。座間市の植物、動物というものについてはもうずいぶん昔の目録があるけれども、歴史的な古文書とかこういった類のものは何も整理されていなくて、リストに残っていない。そういうものはやらなくてはならないと提言書の中でも申し上げた。まちづくり指標で出しているの、ぜひやっていただきたい、進めていただきたいが、現場はこのことをどういう風に認識しているだろうかという、現場の人には申し訳ないけれども、今年1年は様子を見ながら来年から始めるような、それでは遅いのではないかと気がしている。</p> <p>収蔵品の数が多いのだが、生涯学習課で今これを担当しているのは2名しかいない。係にもなっていない担当という部署である。ここのパワーではこういう作業のプログラムもマネージャーもできないと思うので、実現させるために市民の協力をとれるような、そういう形を作っていただきたい。図書館の中に座間市の文化財の調査員がいらっしゃるけれども、調査員との連携も見えないので、その調査員も加えて市民の協力を得てこういうリスト作りをしていただきたいと思う。特に古文書は、古文書を持っているお寺だとか昔の民家、そういった方々に依存しているだけである。そのようなものを見ていると、ミュージアムを作るためには、まずデータ整備をすることの基本に立っていただいたことを評価して、それを推進することをぜひ現実的に進めていただきたいと考えている。</p> <p>事務局 委員からは、施策15生涯学習・文化芸術の分野について、郷土資料館に関することや、実際に現場と関わる中で感じたこと等の意見をいただいた。これに関して、他に意見はあるか。よろしいか。また、最後に何かあったら頂戴できればと思う。</p> <p>委員 こちらの時間のコントロールがうまくできずに申し訳ないが、お一人の発言に対してリアクションをお一人か二人の範囲で進めたい。それでは次の委員。</p> <p>委員 スポーツ協会の代表として、政策4健康に暮らせるまちづくりの施策14スポーツについて。座間市のスポーツ協会は19種目のアマチュアスポーツの団体、会員としては約6,500人の会員がおり、スポーツの振興、市民の体力向上、スポーツマンシップの養成ということで取り組んでいる。</p>
--	---

まず、19団体から色々な意見をいただくが、常に出てくるのはスポーツ施設が近隣に比べて充実していない。隣の芝が青く見えるという理論に当たるのかもしれないけれども、実質やはり施設としては充実していないという言い方になってしまう。それが故に、データを取っているわけではないが、座間市でスポーツをやる人たちが近隣市に流れていってしまう。各種座間市の団体からは新しい人が入って来ない、あるいは抜けていってしまうという状況があると聞いている。仕方ないが、どうしたら良いのかとなると、よく御意見いただくのは、施設を建ててくれ、作ってくれ、総合競技場がないので作ってほしい。とは言われても、そこは、建物はさすがに難しいだろうということで、ではどうしたら良いかということで、前にもこのごま未来プランの懇談会で申し上げたことがあるが、広域行政としてスポーツの施設も考えていただきたいというのものもあるし、あるいは、これも難しいとは思いますが、キャンプ座間のスポーツ施設を何個か一緒に使わせていただけないかという話も出ている。少子化も加わってということでは、やはり子どもたちのスポーツ人口も減っている。特に、学童部の野球チームは激減しているという状況もある。それは、これまで野球しかなかったような時代もあったので、サッカーや卓球等色々なスポーツの選択肢が増えたということでもあるだろうが、聞いた話によると、WBCで日本が優勝した、大谷選手の影響で野球をやる子が増え始めたとは聞いている。

そういう状況下で、今回政策4について市民アンケート調査の集計結果では、健康に暮らせるまちづくりとしては、「思う」人が37%、「思わない」人が27%「どちらでもない」人が36%とあるが、どちらかということと健康に暮らせるまちづくりなので、施策13健康医療を重視して回答された人が多いと思う。一点確認だが、市民アンケートを取られた時に、若い世代、10代、20代というのが非常に少ない。そもそも論、LINEのアカウントを持っている方に対してのアンケートで、返ってきたのが3,758人の市民、その部分はLINEの登録をしている方で、アカウントをとる時に年齢を確か入れていると思うが、若い方というのは結構いるのか。そもそも論になって申し訳ないのだけれども、そもそもそこで若い方の登録者が少なければ当然回答も少ないし、興味がないと言ってしまうえばそれで終わりだけれども、若い方の意見として、例えば、スポーツに関して多様な意見が出てくるとは思っているのので、その辺は少し考えた方が良いのではないかと思った。

施策14でいうと、「市民や団体等が自主的に活動できるスポーツ環境づくりに取り組みます。」ということで、各事業の参加者数、本市が主催

事務局	<p>するスポーツイベント事業の参加者数（年間）とあるが、市が主催するスポーツイベントは、私的に考えると、座間市の総合体育大会と座間市民健康マラソン、それから座間市駅伝競走大会。この3つの大会と理解して良いのか。そうすると自ずと令和12年の4,500人を目標値に掲げられており、基準値が令和3年の2,182人、令和4年の最新値4,022人となっている。令和3年はコロナ禍の影響で大会そのものが激減しているから、当然参加者数も少ない。令和4年になってだいぶ回復してきた。私の記憶だと先ほど言った3大会でいえば、もともとの数字でいうと座間市総合体育大会で3,000人くらい、健康マラソンでだいたい500人くらい、市民駅伝競走大会で250人くらい。4,022人には足りないけれども、ほぼほぼ近い数値にはなる。これを令和12年で4,500人にするというのは、言い方が少し厳しいかもしれないけれど、達成できる数値かと思っている。元に戻れば、完璧に。もともと健康マラソンも1,000人単位の募集をしており、それ相応コロナ禍前は集まっていたという実績もあり、昨年でいうと半分くらい。それが復活すれば、4,500人は、3大会が本当であれば達成できると思う。逆に、市の政策として、スポーツイベントの参加者をアグレッシブにもっと増やそうとするのか、それとも現状値に戻していこうとするのか、どちらなのかと思いつつ、担当としてどのような根拠で4,500人を目標値にあげられているのか、もし分かれば伺えればと思っている。</p> <p>何にしろ、今後座間市のスポーツ団体を増やしていくとか、市民の体力向上をどうしていくのかということであれば、この辺の目標自体も少し変えていく必要があるのではないかという気はしている。</p> <p>始めに事務局から。LINEの年齢層の分布は、手元にデータがないのではっきりとは分からないが、全体で見れば、高齢者層が多く、若い世代も一定程度、率としてはあることには間違いないと思う。スポーツイベント事業の対象にしているものについて、委員に仰っていただいたものと、スポーツ教室、総合体育大会、マラソン大会、駅伝やソフトバレーボール大会等、スポーツ課で現状実施している事業を対象にして数値を出している。また、目標値については、直近としてもコロナ禍の影響で数値がとりにくい部分もあったので、コロナ禍以前の平成30年や令和元年等にとれていた数値から1割増という目標で数字を出しているというのが、計画策定時の考えである。</p> <p>今、委員から施策14スポーツの部分で、スポーツ団体の実情をお話いただき、スポーツ施設の充実や広域的な御意見をいただいたところだが、これに関して他に意見はあるか。よろしいか。それでは、次の委員。</p>
-----	--

委員	<p>これまで委員の皆様から出たものと重なるところも結構あるかと思うが、今回のさま未来プランを策定するに当たって、これだけのことをまとめられたことは携わった方は大変御苦労をされたと思っている。ただ、先ほど委員からあったように、ここに出てくる数値をばっと見るだけでも、当然ながら令和3年と比較すれば令和4年の伸び率は上がる。それはコロナ禍ということもあるから、上がって当然だろうという数値がやはり目に付くところもある。それで、これだけを見てしまうと、あたかも「あ、こんなに伸びているのか。」と間違った判断をしてしまうようなことにもなりかねない。ものによってはそういうのもあるのではないかと。平常時だったらどうなのかということも多少数値を置き換えて、分析をもう1度してみるということも、ある意味必要などころもあるのではないかと勝手ながら見ている。</p> <p>また、手持ちのツールを使ってのアンケートなので、今回使用されたのはLINEということだが、そもそも登録者の年齢構成が偏っていればそれなりの回答にしかならないと思うけれども、仮に均等であったとしても、今このLINEというツールはどちらかというところ10代、20代は離反をしているツールになっているはず。そもそも若い世代が使わなくなってきている。こういうものだけに頼ってのアンケート集計というのも果たしてどうなのかということもあるのではないのかと思う。</p> <p>それと、それぞれの政策云々とは別にして、未来を見据えたプランなので、大きく私なりには2つポイントだと感じている。一つは、これからの世代を担う子どもたちが、本当にこの座間市に住んでいきたい、あるいはどこかに行っても、いずれ戻って来たいと思える、地元として思えるそんな存在になりることができるのかということ。もう一つは、全国的にもそうだが、この座間市も同じように高齢化がますます進んでいる。住んでいる人たちが隣同士でどれだけ気を使って寄り添って生活をしていける環境を整えていけるのかどうか、ここもやはりやっていかななくては行けないかと。誰もが感じていることだと思うけれども、政策云々という前に、今できることを少しでもやっていくことも同時進行していかなければ、ここで作られた政策が数年後に達成をしていくかどうかというのは、やはりそこにかかっているのではないかと感じている。目先のことと、中長期的な部分でやっていくというのは、ある意味、分けて取り組んでいった方が、やりやすいのではないかと感じている。</p> <p>例えば、次の時代を担う子どもたちというと、子どもは何歳から何歳までを対象にするのかということもあるかと思うし、先ほど委員が仰られていたように、お子様の年代を例にすれば、何十年先にお子さんが成人し</p>
----	--

	<p>て、ここで生活をしていった時に、本当にこの座間市に住んで良いのか、自分たちの子どもにもぜひと思えるようになるのかどうかというところがあると思う。また、少し成長して小学校、中学校、高校というところになった時、先ほどもあったが、学校の教育の中でもやはりそういった座間市への愛着というものを高めていくための何かしらの取組というのは行政も含めて介入しながらそういう風に持って行く必要があるかと思う。</p> <p>今、自治会の会員がかなり減っている。これも全国的な傾向だと思うが、この自治会というのは、先ほども言ったけれども、隣同士、住民同士が手と手を取り合って寄り添っていきこれからの高齢化社会を考えると、なかなか座間市、市役所としても手を差し伸べることがあまりできないところまで、この方たちが近隣同士で手を取り合って生活していく環境が整っていけば、行政、市民、それからそのの周りにいる私どものような民間企業とかも連携しながら色々な取組ができていくと思う。</p> <p>繰り返しになるかもしれないけれども、中長期的な部分と短期的な目先の部分で始められる部分というのをもう少し明確にしながら、せっかく作り上げたこのざま未来プランが実現に向かっていけるようにしていくためにも、もう少し密にこういうものはここまでとか、そういうプランを分けていくということもお考えいただいた方が良いのではないかと感じている。</p> <p>委員からは、まさに行政経営の部分について、短期的、中長期的なところに視点を置いていただき、ざま未来プランの実現に向けた大きな課題というところに関する御意見をいただいた。これに関して、他に意見はあるか。よろしいか。それでは、次の委員。</p> <p>社会福祉協議会は地域福祉というところなので、施策16からが直接の分野になろうかというところだが、一点まず疑問に思ったのが、施策16地域福祉の施策の方向性2「地域の多様な主体が役割や特徴を最大限に発揮しながら、活動できるよう取り組みます。」という目標である。なかなかまちづくり指標の設定に苦勞されていることは重々承知しているが、この「地域福祉活動に参加している市民の割合」は理解できるが、「災害時避難行動要支援者個別支援計画書の策定率」、これがなぜこの施策の方向性に繋がるのか、施策9防災・減災の方がしっくりくるように思ってしまい、少し分からなかったが、逆にそうではなくてこの辺は、イオンさんからもお話があったように、色々福祉分野にも御協力をいただいたりして、NPO団体、市内企業であるとか、最近非常に御協力をいただきながら色々な事業を実施させていただいているので、例えばそういう福祉</p>
事務局	
委員	

関係のNPO団体の数だとか、企業と協力して実施した福祉活動の数だとか、そういったものを指標設定に、なかなかデータをとるのも難しいかもしれないが、そういうことも一つ良いのではないかと思った。

災害時の避難行動要支援者、この名簿は当初、社会福祉協議会も我々市社会福祉協議会、それから各地域に地区社会福祉協議会というのがあり、その中で一応名簿をお渡しする時に、もちろん自治会もそうなのだが、色々なところに名簿をお渡しする段階で結構抵抗があり、おそらくPR不足なのか分からないけれども、この名簿を貰ってしまうと、何かあった時に要支援者をどこかに避難させないと、その責任が来るのではないかと。確かに支援計画書が100%ということで達成なのだが、それで本当に良いのか。おそらくきちんと具体的な避難行動に対するイメージが、もちろん支援計画書ができているからそのとおりにやるのだけれども、誰がやるのかとか具体的などころまではなかなかイメージができていないのではないかとこのところが、ざま未来プランの意見として適切かは分からないが、その辺の改善が必要ではないかというのがもう一点。

それから、福祉分野でいうと直接関係ないかも知れないが、我々社会福祉協議会は当然市の受託事業だとか補助事業がかなりの比率を占めている団体であるが、当然市の予算は単年度予算なので、長期雇用、その受託事業を受けたものの人材を正規職員という形で雇うのがなかなか難しく、現実的に見ると社会福祉協議会の職員の3分の2が非正規職員である。正規職員は3分の1しかなく、なかなか安定的な事業をやるのに人材が集まってくれないと、要は思うような給与を払えないという部分もある。そこで、可能であれば行政の研修等に参加させていただくのもそうだが、人事交流を昔は、社会福祉法が改正する前は結構市の職員が研修ということで社会福祉協議会に来ていたりだとか、そういうこともやっていただいたので、今後そういったことも検討していただければありがたいと思っているのがもう一点。

それから最後になるけれども、先ほども発言したが、社会福祉協議会の移転。ここでサニープレイス座間が2年間大規模改修で使えなくなるということで、体育館の幼児体育室に移転させていただく。それに関連して、施策32の「公共施設再整備計画の進捗率」ということで、当然計画どおりであればハード事業なので、おそらく100%に近づくとと思うが、そこで御配慮いただきたいのが、今回サニープレイス座間の大規模改修が終わると、少し離れたところに青少年センターがあるが、その機能と今までの総合福祉センターの機能がいわゆる一つになるということで、その際何が起こるかという、当然団体の活動として、市民が部屋を使って

	<p>ボランティア活動だとか文化活動だとか色々な市民活動に使っていたけど、青少年センターはその後解体されると聞いており、絶対的な量は当然2つの施設があった時に比べれば少なくなる。あと併せて言うと我々が移転している2年間の後半の1年間は実はハーモニーホール座間の改修も入っており、そこも使えなくなるので、おそらくその1年はサニープレイス座間とハーモニーホール座間の両方が使えない時期が1年間くらいある。今でも市民が市民活動に使う部屋をなかなか確保できないと苦慮されている状況下にある。公共施設の再整備計画自体を全く否定するものではないし、必要なことであると思うが、市民の利用の実態をよく踏まえていただき、例えば色々な他の施設を柔軟に、おそらく悪い言葉でいうと既得権益ではないけれども、同じ団体がずっとその施設を使っているという実態もあると思うので、そういうところをある程度市がマネジメントして、柔軟に利用できるようにするとか、市の公共施設、これはなかなか難しいところだが、市民が使えるように工夫ができないかとかそういうことを市民が施設を利用するという立場で、この進捗率を上げていくのは大賛成だけれども、その御配慮をできればいただきたいと思う。</p>
事務局	<p>委員からは、施策16地域福祉、これは福祉に限ったことではなかったが、指標の設定だとか、達成している目標についての視点で御意見をいただいた。もう一点が、行政との連携というところ。施策32の公共施設。市民や市民活動団体、皆様が活動する拠点の関係等、そういった利用の実態の把握というところの視点で御意見をいただいたかと思う。これに関して、他に意見はあるか。</p>
委員	<p>一つは、コミュニティセンター。コミセンの場所によっては、市民以外が使っている例が結構あると聞いている。実数で捉えているわけではないので、実態は分からないが。例えば、相武台のコミセンだと、相模原市民が結構来られていると伺っている。そこで、座間市民以外が使う時は有料にすれば良いと考える。有料にすることが目的ではなく、座間市民を優先するという意味合いで、そういうことを施策として取った方が良いのではないかというのが一つ。</p> <p>それから、自治会の集会所は、結構どこも稼働率は低い。なので、市と自治会で協定して、自治会を市民活動に使うというのを促進することは可能だと思う。あまりそういう話は来ないけれども、そういうことも考えてみた方が良いのではないか。</p>
委員	<p>老人憩いの家は社会福祉協議会の管轄だったかと思う。そこは高齢者しか使えないということだったが、それはどうなのか。</p>

	<p>例えば、子ども食堂をやろうと思ひ、社会福祉協議会に相談しながら進めているところだが、老人憩いの家という案も出たが、高齢者優先ということで使えないと言われた。空いている時間もあると思うので、そういうところもうまく使えないかと思つた。</p>
事務局	<p>現状としては、老人憩いの家に限らず、公共施設それぞれの設置目的があり、設置目的にどうしても縦割りになつてしまつているというのが実態かと思ふ。</p>
委員	<p>今の意見は、縦割りになつてゐることを解消したらどうかと、せつかくあるものを稼働率上げた方が賢いでしょうという意見だと思ふ。縦割りになつてゐるというのが理由、説明だとおかしいと思ふ。だとしたら、老人憩いの家の「老人」をとつたらどうか。</p>
事務局	<p>仰るとおりだと思ふ。そこに関しては、最初に申し上げたとおり、この場で結論を出すことができないので、まずは受け止めさせていただき、市全体でというところで、この場だけでなく、皆様の意見を内部に伝えるというところが我々の役割だと思つてゐるので、そこは御了承いただきたい。何かお答えしたいというところで、実態をお答えさせていただいた。</p>
	<p>懇話会を開始して1時間半経過したので、5分程度休憩を入れさせていただきます。また皆様が集まり次第、再開させていただきます。</p> <p style="text-align: center;">・・・・・・ 休憩 ・・・・・・</p>
事務局	<p>これまで各委員から御意見をいただいた後に、他の委員から追加の意見をいただいて進めていたが、まずは皆様の意見を聞き、後ほど追加意見を募る時間を設けることとする。それでは、次の委員。</p>
委員	<p>施策7について、「商業及び工業の活性化を支援します。」と書いてあるけれども、今日は商業について。これまで商業というと商店会、座間市は比較的隣接した駅もあるので、小田急線の座間駅、相武台前駅、小田急相模原駅、あとは相鉄線のさがみ野駅と結構その辺に商店会が多いが、皆様高齢化しており、後継ぎがないということで、閉める数がここ数年非常に多い。</p> <p>そこで問題になるのが、街路灯は商店会で管理しているので、商店会として街路灯を撤去する時の費用が座間市から出ない。あとはよく近隣の市と話をする時に出るのが街路灯の電球交換の費用が出ないということ。商店会はこれまで地域のコミュニティ、例えば通学路があるので、商店会の皆様が子どもたちを見守つて来たということがある。問題となるのが、街路灯が撤去できないということ。資金を貯めている商店会と、人が減つて街路灯だけが残つて撤去できる費用が全くないというところもあるので、その辺の支援をしていただきたい。特に街路灯の電球交換。市</p>

	<p>民は街路灯を市が設置していると思われる。よく聞くのは、電球が切れていると市に連絡が来て、電球交換するという話があると思う。その辺の補助金。</p> <p>あとは、商店会と先ほど言ったが、高齢者がやめられて空き店舗が、下手すると自動車を通った時にシャッターがガタガタ震えてシャッター通りと言われることもあるが、結構今若い方で起業している方が多い。飲食店だったり、小物を売りたいとか。ただ空き店舗補助金というのが市にあるが、それを使うには1年くらいかかってしまう。それをもう少しスピーディーに補助金を出してほしい。商店会に関してはそれだけ。</p> <p>あとは、施策5の特産品とか推奨品。今なかなか推奨品の申請が少ない。観光協会で行っているが、座間市に見合った推奨品は少なく、私は座間市商店会連合会の会長もやっているの、一生懸命推奨品や特産品、あとは、ふるさと納税に関する返礼品について、新たな掘り起こしをしているが、その中で、先々週商店会連合会で作ったざまりんの人形焼、おそらくタウンニュースを見られた方もいたかと思うけれども、かなり好評で1週間で80～100箱程売れている。</p> <p>今後も、これから座間市はひまわりまつりという大きな祭りがあるけれども、私が思っているのは、座間市に来られたら、観光とグルメとお土産、このトライアングルで捉えていきたいと考えている。皆様もどこか地方に行ってせっかく来たからどこか観光して、何か地元のおいしいものを食べようというグルメ、帰る時には何かお土産買ってこようよ。それを今、商工会、商店会連合会で取り組んでいるので、何とか良い形になればと思っています。</p> <p>委員からは施策7産業振興の関係で、商店会を例にあげた行政の支援に対する意見や、施策5地域の魅力向上について、特産品や観光に関して御意見をいただいた。それでは、次の委員。</p> <p>私も施策7産業振興、施策の方向性として、「活性化を支援します。」ということで、出荷額と商業事業所数とあるけれども、更新なしということで、総合戦略の時も申し上げたが、この地域で商業又は工業を活性化させようというところのこの指標は、ざま未来プランの中ではこの項目しかない。けれども、国が、このような表示、または県が表示をしないということになったので、数字が出てこなくなっている。総合戦略の時にそのように教えていただいた。そうすると未来永劫、ざま未来プランを組んでも産業振興のところはずっとこのままになってしまう。</p> <p>座間市の中で事業者が税を収めて、その税を地域の色々な事業に使う。中には住民だけを増やしていった近隣自治体があるけれども、高齢化し</p>
事務局	
委員	

	<p>て、住民税を収めるのが極端に少なくなってしまう等があり、慌てて企業誘致をやっている。そうではなくて、座間市はかねてより産業と商業とたくさんある中で水も豊かだということも含め、これからの産業と商業を支援するということは、やはり強化すべき項目だと思う。ざま未来プランで住むことと働くこと、これが近いのはまさしく1番良い地域コミュニティだと思っているので、それを考えると施策7産業振興のところはもう少し何をする、何をしているという状況が見えないといけない。</p> <p>これから日本全国、人手不足が必ずやってくる。我々働く仲間は、各事業者、産業でも、人が足りない。これからまた、更に減る。そして外国人労働に頼っていた時代は終わり、日本には日本が好き外国人しか来ない状況がさらに深刻化していく。なおかつ、CO2の問題。大きい企業、中小企業含めてCO2対応していないと事業者として認められないという時代がやってくる。その時に自治体として何ができるのか、商業、産業を支えるというところがこの項目に出てくるということになると思うので、ぜひとも産業振興というところをもう少し充実させるというところをやっていただきたいと思っている。施策7からは以上。</p> <p>あとは、施策28基地政策のところになる。こちらは、アンケートを実施したとある。基地の街座間市であるけれども、ここにも我々の働いている仲間がいる。ただ単純に基地をなくすということだけを訴えかけると、いろいろな数字が出てくるだろう。だが、ここで事業をやっていたり、または働いている人がいる。単純に基地をなくすということだけではなく、ここで雇用が発生していて、生活をしている生活者がどう思っているのかということも重要だと思う。基地が予算縮小又は基地縮小した時にそこで奪われる事業と雇用というところをどうやって調べていくか、または地域で支えるか、それを座間市として、ざま未来プランとして支えていかなければと思っている。</p> <p>事務局 委員</p> <p>委員からは、施策7産業振興に関して具体的な取組の部分や指標の設定等について御意見をいただき、また施策28基地政策については勤労者の視点から御意見をいただいた。それでは、次の委員。</p> <p>施策20生活困窮者の自立支援。生活保護世帯で新規就労に至った受給者の人数ということで、県も職業訓練校というのがあり、手続的にはハローワークを通じてとなるが、そこを連携・活用というのもぜひやっていただきたいと思う。授業料も生活困窮者のことであれば、免除にもなり、就職支援も丁寧にやっているの、ぜひ検討していただければと思う。</p> <p>もう一点は、全体的なところで、工夫を御検討いただければということで、例えば、新規就労者数の数が出ているが、その分母というのはどうな</p>
--	--

	<p>っているのか。生活保護世帯というのが増えたのかどうか。12ページもそうだが、生活困窮者に対する支援計画の作成件数というのがあるけれども、令和3年が245件、令和4年が74件に減っているけれども、これは生活困窮者の数が減っているのか、作成件数が減っているのか、これの判断がなかなかできないかなど。</p> <p>あと、コロナ禍のお話があったけれども、コロナ禍の影響ということで、コロナ禍前のデータとの比較が必要なものもあるので、例えば1ページの施策2「青少年育成事業の参加者数」であるとか、3ページの施策5「入込観光客数」であるとか、施策15「生涯学習事業の参加者数」等、こういったものがコロナ禍の影響があるのであれば、コロナ禍前とのデータの比較、そういったものがあつた方が良いと思う。CO2の排出量を見ても、おそらくこれも毎年やっているわけではなく、5年に1回とかそういう調査の結果しか出ないと思うが、その間の取組が足りているのか足りていないのか、そういった判断がなかなかできないのかと思うので、参考資料で良いので、この数字の意味を少し参考となるようなものの資料の提示があると良いと思う。</p>
事務局	<p>委員からは施策20生活困窮者の自立支援に関連する県の取組を御紹介いただき、また、全体的な部分で指標の説明の仕方や今後の指標の管理の仕方、そもそもの分析の仕方等そういった視点で御意見をいただいた。それでは、次の委員。</p>
委員	<p>3ページの施策5地域の魅力向上について。皆様からお話をいただいたことに重なるような話になってしまうが、まずは座間市に愛着や誇りを持っている市民の割合ということで、パーセンテージが書いてあるけれども、ここの世代間のギャップというのは実際どうなのかと思っている。若い方の愛着や誇り、中堅層、高齢者の愛着や誇りといったところの、この世代間ギャップというのはないのかなということ、この辺の数字が手元があれば具体的に、この場でなくて当然良いけれども、そういったものが少し知りたいなど。その中で、下にあるアンケートで座間市に愛着や誇りを持っていると回答したとあるけれども、何に対して愛着や誇りを持っているのかといった具体的ところが知りたいなど。というのも、私も「座間市といえばこれです。」というのが、来て3か月ということもあるが、まだ他の職場の同僚であったりとか家族だったりとかなかなか言えない部分があり、うまく自分の言葉で説明ができない。「緑が多くてすごく住みやすいところだよ。」というところもあるけれども、例えば、先ほどお話をいただいた特産品であったりとか、こういった施設であったりとか、「座間市といえばあれだよ。」と言えるものが少ないのかなど</p>

	<p>いう気はしている。というのが一つ。</p> <p>もう一点は、高齢者のところ、職業柄で、あまり良い話ではないが、高齢者がお亡くなりになられて、相続という形で銀行に御連絡をいただくが、着任以来、1日で片手では足りないくらいのお話が結構舞い込んでくる。その件数は前いた支店だとか、経験上からするとかなり多いペースである。銀行の話になってしまうけれども、その御預金が、例えば同居されていらっしゃる御家族に相続される、引き継がれるということなら良いが、比較的他県だとか遠い地域に御家族がお住まいになられているので、どんどん座間市から資金が抜けているというか出ていってしまうそんな感覚にもなる。</p> <p>何が言いたいかというと、先ほど冒頭で申し上げたように、若い世代がやはり今後の座間市を盛り立てていく中で、彼らがどういう風に考えているのかというところが、教育しかりしていかないと先々細ってしまうのではと考えている。</p> <p>あと銀行としては、今横須賀市だとか、秦野市と提携を結びながらまちづくりや地域創生の活動も実際やっている。座間市の目玉になるものであったりとか、今後再開発であったりとか、そういった計画の中で、銀行としてもぜひ何か御協力できるところはしていきたいと思うので、ぜひそういった計画があれば手を取ってほしいと思う。</p> <p>委員からは、施策5を中心に座間市への愛着の関係や若い世代、人口に触れていただき、こちら側の資料の分析を多角的にしたらどうかとの視点で御意見をいただいた。それでは、次の委員。</p> <p>自治会、市自連としての話は、個別に話はきちんとできているので、そういう視点は少し置いておいたとして、全体を見た時にどうなのかという話を2つ3つさせていただきたい。</p> <p>一つは、コロナ禍の話は3、4人の委員から出ているので、少し見方を慎重にという話だと思う。</p> <p>それから2つ目は、この指標の中で達成しているもの、あるいは達成しそうなものが結構ある。これは、1か月、2か月頑張ったからこうなりましたというのも中にはあるのかもしれないけれど、多くは計画の甘さだと思う。これは、達成したから良いという話ではなく、大いに反省をすべき話だと思う。こんな1か月、2か月で達成してしまうような指標を選んではしまった、目標値を設定してしまったということは非常にみっともない。普通で考えたらあり得ない話だと思う。なので、もう少し高い目標を来年度に向けて、設定するとか、指標を思いっきり変えるとかいうことをやらないと、少し指標の信頼性が怪しく感じる。</p>
事務局	
委員	

	<p>もう一つは、先ほど冒頭で説明があったポスター。おそらく認知度が18%、19%だからもっと知ってもらうために色々なところにポスターを貼ってもらおうということで、自治会にもポスターを貼った。だけど、あの内容で第五次座間市総合計画を知っている人を増やそうとしているのであれば、大きな間違いだと思う。第五次座間市総合計画と上部に小さく書いてあって、キャッチフレーズが書いてあるだけ。何を売り込み、訴求したいのか分からない。キャッチフレーズを訴求したいならあれで良いかもしれないけれど、第五次座間市総合計画が何なのかというのを市民は知らない。だから例えば、「あなたの未来がここに書かれています。」というくらい踏み込んだ訴求の仕方をしないと、おそらくあれを見た人たちは「総合計画なるほどね。」と認知度が上がるという風には繋がらないと思う。もし、今後訴求するためのポスターなり告知をするために何かがあるのであれば、もっと座間市総合計画というものの中身、中身というのは細かい中身を言っているのではなく、座間市の未来がここに書いてあるのだと、あなたの未来がここに書かれているのだということを訴求していかないと、おそらくだめだと思う。</p>
事務局	<p>委員からは、まずコロナ禍前後のところをしっかりと検証した方が良いという意見と、達成している指標については、計画の甘さであるとの意見を頂戴した。確かに、既に達成した指標がある。指標によっては目標値がゴール地点なのか、あくまで通過地点なのか、それぞれ位置づけも違うと思うので、そこはしっかり見直し等検討していきたいと考えている。また、最後にざま未来プランの認知度向上に関する御意見をいただいた。それでは、次の委員。</p>
委員	<p>私も個別の政策というわけではないが、今日この懇話会にお声がけいただいたのは、私たちのやっているWOOMSという廃棄物収集のデジタル化、DXというところで、お声がけいただいたところなので、19ページの施策29デジタル化推進ということについて。この施策の中身だけ見てしまうと、オンライン手続をスマートフォンからの手続に変えていくという項目だけというのは少しやはり寂しいと思えてしまう。もちろん市民サービスの向上という意味で行財政運営のところには位置付けられているので、直接的な市民サービスでのメリットという記載のされ方になることは理解しつつも、今私たちが一緒に座間市と取り組んでいる廃棄物収集のデジタル化というところでは、デジタル化することが目的ではなく、今までアナログにやっていたことを電子化することが目的ではなく、電子化したことによってさらにリサイクル率を高めたりだとか、または廃棄物の焼却処分量を削減できたりとか、かなりの定量効果も増え</p>

事務局	<p>ていって、そのあたりの部分というのをとって、デジタルを使うということが目的ではなく、それによってどう市民に対して地域の環境に対して良くなったかということをご示していきたいと思う。これはちょっと一緒に連携させていただいている私たちが良くなかったところでもあるが、そういうことを市民の皆様や、座間市の市庁舎の中でも知っていただけると良いかと思う。というのは、廃棄物収集は、先ほど市民の生活にすごく近いという風に申し上げたが、毎日ほとんど全ての座間市内の道を収集車が通っている。これはすごいアセットで、道路インフラ管理にも、もしかすると道路所管課と環境所管課で連携することによって道路インフラのカーブミラーが曲がっているとか、台風の後には電線が切れそうだとか、そういう収集車がくまなく通っている道の情報収集を、部署を超えて連携することによって、道路管理は道路管理の予算、環境部門は環境部門の予算ではなく、そこをもう少し柔軟にコントロールすることによって、実は財政の削減もできるし、より良い市民の安全な暮らしにももっと貢献できるのではないかと考えている。</p> <p>インフラ管理だけではなく、例えば地域の安全、見守りみたいな機能も、連携することによってできていく、そういう政策をもう少し、デジタル化推進と一言ではあるが、デジタル化の目的というのが何に当たるのかということをもっと多岐にわたる目線で見えたら良いのではないかと考えた。</p> <p>委員からは施策29デジタル化推進という分野をきっかけにお話しただいたが、内容は行財政分野全般で、今後の行政経営的な視点に対する御意見もいただいたかと思う。</p>
事務局	<p>議題2 まち・ひと・しごと創生総合戦略について (議題2の概要について、資料3に基づき説明。)</p> <p>ざま未来プランの実現に向けてデジタル技術をどのように活用し、本市の取組とマッチさせていくべきか、市政全体に関することや市民生活や事業活動に関する事等御意見をいただきたい。</p>
委員	<p>デジタル化というところでシンプルに言うと、先ほどのパンフレットや冊子、そして様々な市民に配るものにQRコード表示を。最低でも入口に行けるQRコード、そして中を開いた時にこう見せたいという時のQRコードを掲載可能であれば全てそういう風にやると皆様も容易に見られると思う。御検討を。</p>
委員	<p>何を聞かれているかよく分かっていないが、先ほど委員も仰っていたけれども、デジタル化は目標ではない。ただのツールの話をしており、ツ</p>

<p>事務局 委員</p>	<p>ルの話でデジタル化というのは変な話で、ほとんどがデジタル化されている。皆パソコンを持って文章を打っている。手書きの人はほとんどいない。デジタル化されていてそれを繋ぐというところまで行っていないということが問題であって、繋いだ時にシステムとしてどんなことが提供できるのか、どんな価値を提供できるのかというところが一番大きな議論しなければならないところで、国もそうだが、デジタル化という言葉を使ってしまっていて、何だかぼんやりしてしまう。提供できる価値というものをもっと高めていく、利便性だけではなく、価値を高めていくという議論をもっともっとしていただきたいし、させていたいただきたいと思う。</p> <p>他に意見はあるか。</p> <p>最後に言ったことと重なる部分もあるが、やはりデジタル化やデジタル田園都市、スマートシティと言われているような色々な方からもお話を聞いている中で、やはりまちづくり、都市づくりというのはリアルな建物を維持管理したりとか、場所をきちんと整備したりというのがベースにあり、そこにデジタルがあるかないかというのがスマートシティと従来のまちづくりの違いであるというのを仰っている先生の話聞いて、確かにそうだよなと思っている部分がある。デジタル化するために何をデジタル化できるのかと考えるというよりは、例えば、人手不足という課題があったら、その人手不足の課題を解消するために、デジタル技術をどう活用していくとか、あるいは商店街の活性のためには、イベント等をするけれども、運営の工夫等を何かデジタルテクノロジーを使って街路灯の電球が切れている情報が市と連携できるとか、課題があってそこに対してどういうソリューションを当てはめていくかということがすごく大事なのではないかなと思う。基本的な目標がある中でこれを実現するために今なぜできないのか、何がネックでできないのかということ、やはり皆で話して課題をきちんと共有した上で、この課題を解決するためには何か活用できるテクノロジーがあるのではないかなというように段階的に具体化していくのが良いのではないかなと思う。</p> <p>やはり、子育ての話等今日も出ていたし、労働者の話っていうところも出てきている中で、ここに暮らす人がどう幸せになっていくのかということ、ここを起点とし、そこの過程の中でうまくデジタルを活用していくことができると、より良いのではないかなと思う。なぜデジタルを使うのかと、この目的意識をしっかりと共有するというのが大事だと思う。</p> <p>デジタル化ということについては、何の意義を唱えるわけではないが、私が先ほど申し上げた文化財関係、それと文化財保護というようなことについて、ややともするとデジタルミュージアムをすぐに持ち出してき</p>
<p>委員</p>	<p>デジタル化ということについては、何の意義を唱えるわけではないが、私が先ほど申し上げた文化財関係、それと文化財保護というようなことについて、ややともするとデジタルミュージアムをすぐに持ち出してき</p>

	<p>て、資料館設置とかデータの整理ということになると、お金がないという回答が議会が出たのか財政が出たのか分からないけれども、そういう話になる。安直に安くやればデジタルミュージアムで行こうというようなことが出る可能性がある。ハンズオンという基本的には展示して物を観察するということが文化財学習の基本であるので、それを抜きにしてデジタルミュージアムなんて考えてくれるなということを経験的に申し上げたい。</p> <p>それともう一点、デジタルの問題とは別だが、この資料の財政指標の推移を見てみると、財政指数が少し、令和3年がコロナ禍の影響で下がったのだろうとは思っているけれども、こういう裏付けはこのごま未来プランの眼中に入っていてくれないと困ると思う。それでないと先ほど委員が話していた産業系がこのごま未来プランは弱いというのは私も読んでいて思った。この座間市の圏央道、246、あるいは湘南に向かう産業道路を見ても、座間市はそれをうまく利用する工業政策というか、それはどこかにあるのか。これは来年作りましようとか、再来年作りましようの話ではない。10年計画とか20年計画の話だと思う。そういったものを見せてくれないと少し色々辛いなということを感じているので、自分の立場からは分野が違うが、そんなことも付け加えさせていただきたい。</p>
委員	<p>もう一つ良いか。報酬の請求書が紙で来ているが、このようなものをなぜハンコを押してまで、いちいち出さなければならないのか。既にデータが市の中に絶対あるはず。私は去年おそらくこの類の市の会議は2、30回出ている。絶対にデータはある。なぜ繋がっていないのか不思議だし、もっと言うと、マイナンバーカードで紐づけもされている。なぜいちいちこういうの出さなければならないのかということが既に遅れている感じがする。言っていることが分かるか。このようなものをいちいち出さないで済むように早くしてほしいと思う。</p>
事務局	<p>他に意見はあるか。時間の関係もあるので、議題2については以上とする。</p> <p>それでは、議題1、議題2について、各政策について、各分野に携わる委員の皆様から御意見をあげていただいたことや、そもそも指標の示し方や分析の仕方、ポスターのPRの仕方、今後のデジタルの活用についてということでたくさん意見をいただいた。今後の総合計画の進捗管理に活用していきたい。全体をとおして、追加の御意見等あるか。</p>
委員	<p>議題1、資料2の3ページにある施策2の市内を訪れた観光客数、なぜこの基準値は令和3年を基準値にしているのか。令和3年は、ほぼほぼ市内の大きなイベントはやっていない。例えば、大風まつりとかひまわりま</p>

<p>事務局</p>	<p>つりとか。他のところだと色々な年代によってあるのに、なぜコロナ禍真っ最中のところを基準値にしたのか、その辺を聞きたい。</p> <p>今回それぞれの分野の委員からも様々なところで、令和3年度をなぜ基準にしているのかといただいた話だが、そこは受け止めさせていただき、今後活かしていきたいと思う。他に意見はあるか。それでは、ないようなので、次第4の最後にざま未来プラン進捗管理アドバイザーの津軽石教授から、お話を頂戴したい。</p>
<p>津軽石アドバイザー</p>	<p>昨年総合計画の策定の審議会に1年間、湯浅委員や内藤委員にも御出席、御協力いただいて、話し合いをしてきた。そういった中で、聞くところによると前回の第四次の計画はなかなか目標のクリアが難しかったという話を聞いており、計画ができて今回懇話会というのが設置されたということについては、市民が参加する進捗管理の仕組みを改めたということ自体は私は前向きに評価したいと思う。色々調べさせていただいたところ、個別の施策の部分については、毎年予算に反映させる内部での仕組みはそれなりにこの市役所の中にはもともとあったようで、特に今回こういった外部の人が入る進捗管理の仕組みを改めたということは、私は一つ進歩ではないかと思っている。今日皆様から色々な意見があったということは、おそらくこの市役所のこれからの政策運営のために非常に参考になったのではないかと思っている。</p> <p>今日の議論の中で、政策について色々各委員の立場があって色々な御意見があったが、例えば、子育ての問題であるとか、あるいは地域への愛着の醸成をどうやって図るかといった話があったかと思うが、今後、冒頭に事務局からの説明でもここでの議論は次年度以降の予算や施策に反映させていきたいという話もあったところなので、政策の重みづけについて、今後参考にしていけるとよろしいのではないかと思っている。</p> <p>ホームページを拝見すると、審議会で審議されていないものだけでも、総合計画の実施計画というのができており、ホームページで見る限り今後3年間の政策の方向性というのがあるが、見ると軒並み「前年と同様に継続」を示す「横棒」である。つまり、前年と同じみたいな感じの傾向があるので、そういった意味ではやはり行政組織なのでどうしても縦割りにならざるを得ない部分もあって、毎年何となく前例踏襲でいきたいという組織の慣性が働くのは、やむを得ないことだとは思いますが、そこに皆様の意見に基づき、横串を刺すような感じでいくと、より市民目線での施策というのが進められるのではないかというような感じを受けた。そういった意味では、今後來年度予算に向けては市民の意見を受けて予算が変わった、施策がこう変わったというところが見えるような形にしてい</p>

事務局	<p>ただけるとありがたいと思っている。</p> <p>それから議論の中で出ていたが、どうしても組織の縦割りの部分のお話がやはりあって、施設の名称に老人が付くとか付かないとか話もあったが、市民への計画あるいは市の方針の説明もさることながら、職員間でのそういった議論というものやはりより一層進めていくべきではないかと思っている。他の自治体を見ると、例えば、先ほど拝見したけれども、座間市の場合、決算の資料というのが予算科目ごとになっている。それよりは、今回新しく作られた政策分野ごとにこの部分にこれだけのお金が使われて、こういう成果が出たという方がたぶん分かりやすいのではないかと思っている。今後そういった部分についても御検討いただけるとありがたい。実質、今年度は、計画の初年度になる。ますます良い政策が行われるよう期待したいと思う。</p> <p>次第4議題については、以上で終了とする。</p>
-----	--